

拠点名称：富山資源循環モデル創成にむけた産学官共創拠点

代表機関	富山大学	プロジェクトリーダー	柴柳 敏哉 富山大学 学長補佐、先進アルミニウム国際研究センター長、学術研究部都市デザイン系教授
幹事自治体	高岡市	幹事機関	東北大学 YKK AP株式会社、三協立山株式会社
参画機関	富山県、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市 アイシン軽金属株式会社、ハリタ金属株式会社、北陸アルミニウム株式会社		

プロジェクトの概要

天然資源の乏しい日本にとって、資源を効率的に持続的に利用することは重要である。アルミ産業は富山県にとって重要な産業であるが、①アルミ新地金製造には大量の電気を必要とし、二酸化炭素排出量が高く、今後利用に規制がかかる可能性がある。②原料のアルミ新地金が全量海外からの輸入であり他国との資源争奪戦が始まっている。という脅威に対する対応が緊急の課題として挙げられている。

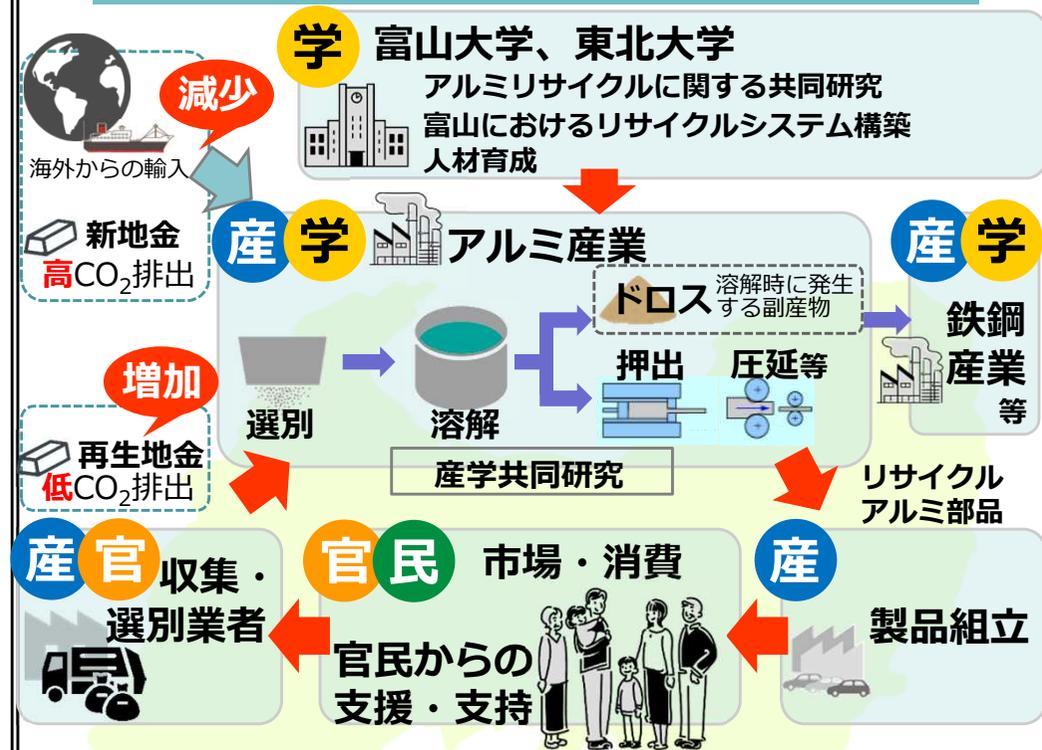
解決に向けては、アルミスクラップのより幅広い用途への活用が必要となる。本拠点では現状利用不可能な用途に対して、**不純物を含むアルミスクラップからの再生地金の利用を可能にする研究開発を行う。**

さらに、富山におけるリサイクルシステム（資源循環社会モデル）を**地域の産官学民の全ステークホルダーと共に構築し**、富山のアルミの環境付加価値を向上、**EV等の新市場への進出を支援**する。

あわせて富山の持続的な社会的課題の解決システムとして**持続的・自立的な産学官の共創システムを構築し**、広く地域の利用に供する。

これらの活動を通じて、**富山で資源循環社会モデルを創成し**、日本全体に横展開をすることで、富山県の工業の持続的発展、我が国のアルミ産業の発展、地球規模での環境保護等に貢献する。

ビジョン：富山資源循環社会モデルの創成



アルミ産業の課題

- ①カーボンニュートラル対応（製造時CO₂排出量の低減）
- ②経済安全保障（海外の新地金に頼らない生産）